



特定非営利活動法人

名称変更しました!

日本がん登録協議会 (旧称: 地域がん登録全国協議会)

JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER

年3回
発行

JACR ニュースレター

May.2017 No.42



理事長退任に際して

田中 英夫 前理事長

大阪府岸和田保健所 所長



2017年3月末を持ちまして愛知県がんセンターを退職しました関係で、JACRの登録会員ではなくなりましたことから理事を退任いたしました。津熊秀明前理事長の後任として2012年7月に5代目理事長に就任し、4年9か月の間、正会員、賛助会員、事務局の皆様はじめ、多くの関係者の方々に支えられて3月まで理事長を務めることができましたこと、厚く御礼申し上げます。

この4年9か月を振り返ってみますと、2014年度から第3次対がん10か年総合戦略研究事業の終了に伴い、研究班からの委託事業費が入らなくなることから、財源の確保が就任当時喫緊の課題でした。そこで、広報関係や出版物の増加に力を入れつつ賛助会員の拡大に注力しました。JACR役員が実り、有り難いことに賛助会員企業・団体をこの間に倍増することができました。また、この間に新たにJACRが取り組みました主な活動内容を年表ふうにしみますと、

2012年度: 学術奨励賞の開設、ニュースレターのカラー印刷化、JACR設立20周年特別号の発行、がん対策推進法制化に向けた働きかけ

2013年度: がん対策推進法制化に向けた働きかけ、JACRモノグラフの査読システムの導入、JACR設立20周年記念シンポジウムの開催

2014年度: 藤本伊三郎賞の開設、実務者功労賞の復活、日本医師会との共催シンポジウムの開催

2015年度: 都道府県向け安全管理モニタリング事業の開始、がん患者さんとの協働事業(J-CIP)準備委員会の始動

2016年度: ヴィジョンとミッションの策定・公表、日本がん登録協議会に改名、国立がん研究センターから安全管理措置モニタリング事業の受託と事業開始、事務局の移転、ニュースレター発行を年3回に増やす

が上げられます。仕事量の増大にもかかわらずこれらを的確にこなしてくれました事務局の方々、これを指導くださった国立がん研究センターの松田智大先生、また、各種委員会の役員、専門委員の方々に御礼申し上げます。

さて、退任にあたり、今後のJACRが進むべき方向性について私見を述べたいと存じます。2016年の5月に公表しましたヴィジョンとミッションに示されたところですが、全国がん登録データがしっかりしたものになるように都道府県がん登録に従事する方々を技術支援するという点は従来どおり堅持しつつも、時代の流れに合った新しい事業に積極的に取り組む必要があると考えます。その1つが、院内がん登録実務者の技術支援を通じた院内がん登録の充実を図ることです。院内がん登録由来資料の利活用の充実を含めて、実務者の技能を向上させるための教育、研修の支援活動が重要と考えます。院内がん登録には進行度別生存率などの有用な指標が施設単位で算出でき、それらはがん患者さんとその家族のニーズの高い情報となっています。

2つ目に、がん患者会の方々との協働により、がん登録関連情報をわかりやすく社会に発信する事業があります。この事業はJapan Cancer Information Partnership(J-CIP)と名付けて1年余り前から準備委員会が準備に当たっています。今後、サバイバー生存率や多重がんリスクなどをホームページで公表したり、がん患者とその家族向けのシンポジウムを開いたりして、新しい形のがん登録由来情報を社会に発信していくことが重要です。

3つ目に、都道府県がん登録における安全管理措置への支援事業が上げられます。がん登録推進法が施行されて同事業における安全管理に関して求められる水準が厳しくなりました。これに対応すべく、2016年度に国立がん研究センターから受託しましたモニタリング事業をNPOとして着実に実行し、継続することが求められるものと思います。

最後になりましたが、とりわけ私の理事長任期中にJACRに温かいご支援を頂戴いたしました、日本医師会副会長の今村 聡先生、日本対がん協会会長の垣添忠生先生、前国立がん研究センター理事長の堀田知光先生に、深謝いたしまして、退任の挨拶といたします。